

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



KAWASAKI CITY



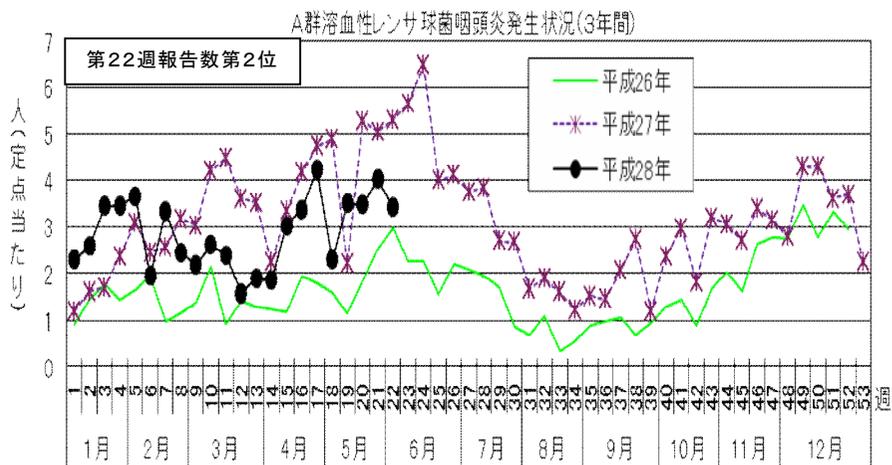
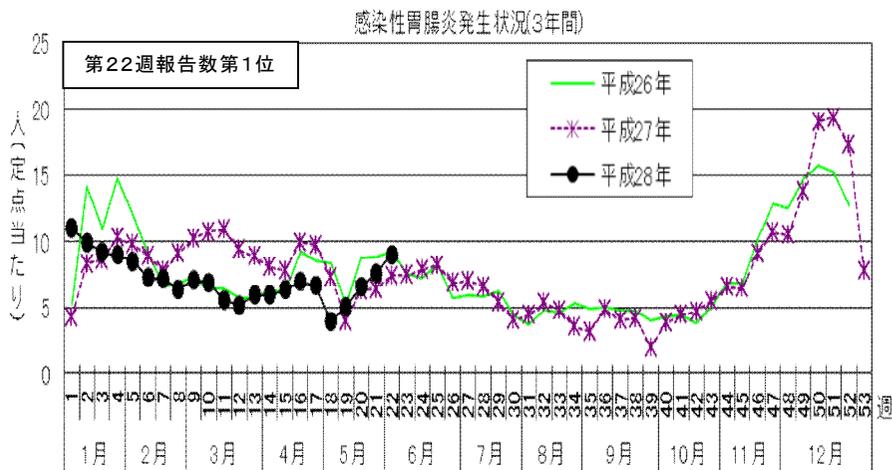
平成28年5月30日（月）～平成28年6月5日（日）〔平成28年第22週〕の感染症発生状況

第22週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 流行性角結膜炎でした。

感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は9.05人と前週（7.62人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は3.43人と前週（4.03人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。

流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は1.33人と前週（1.11人）から増加し、例年より高いレベルで推移しています。



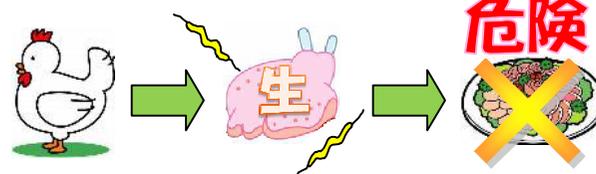
～食中毒に注意しましょう！！～

夏に向けて気温や湿度が高くなると、細菌による食中毒の発生が多くなります。カンピロバクターを原因とする細菌性食中毒は、近年発生件数が非常に多く、国内では年間約250～350件、患者数は約1,500～3,000人程度にも上ります。

カンピロバクターとは？

家畜からペットまで多くの動物が腸内にカンピロバクターを保菌しています。

●感染経路：汚染された食品や水を介する経口感染。市販の鶏肉の約4割が汚染されているといわれています。

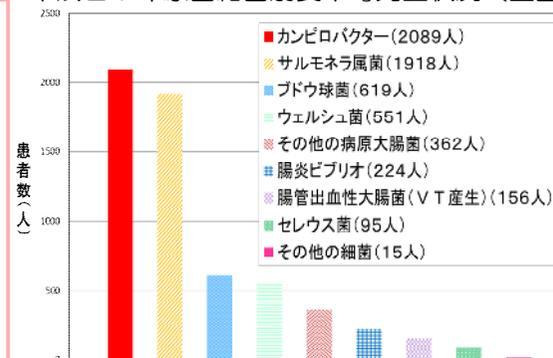


●潜伏期間：2～5日間

●症状：下痢、血便、腹痛、発熱、嘔吐など。多くは1週間ほどで回復。乳幼児や高齢者、抵抗力の弱い方では重症化する危険性もあります。

※感染して数週間後に、ギラン・バレー症候群を起こす可能性があることが知られています。

平成27年原因細菌別食中毒発生状況（全国）



ギラン・バレー症候群

感染などをきっかけとして、全身の麻痺がみられる疾患です。原因となる感染症の約30%がカンピロバクターといわれています。